

STANDARD

携帯型デジタルトランシーバー

VXD1

Digital

【資格不要】



デジタル
30
チャンネル

Digital Convenience Radio

3R 登録局

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書
をよくお読みください。

お読みになった後は、大切に保管してください。

このトランシーバーは国内専用モデルです。
海外では使用できません。

目 次

はじめに.....	1
構成品.....	2
防水性について.....	2
電波干渉について.....	2
安全上のご注意.....	3
各部の名前と機能.....	8
アンテナの取り付け.....	11
ベルトクリップの取り付け.....	11
ハンドストラップの取り付け.....	11
電池パックを入れる / 取り出す.....	12
電池パックについて.....	13
電池パックの充電方法.....	14
お使いになるときのご注意.....	14
電池パックの持続時間を延ばすには.....	15
電池パック単体で充電する.....	15
電池パックをトランシーバーに入れて充電する.....	16
デジタル簡易無線局について.....	17
チャンネル構成とコールチャンネル.....	17
通信方式.....	17
UC（ユーザーコード）通信のしかた.....	18
UC（ユーザーコード）通信の設定と運用手順.....	19
UC（ユーザーコード）通信方法.....	20
UC（ユーザーコード）設定方法.....	23
個別通信のしかた.....	24
個別通信の設定と運用手順.....	25
呼び出し方法.....	26
呼び出しを受けたとき.....	30
通信時に動作する機能に関して.....	31
キャリアセンス機能.....	31
LED インジケーターによる通話状態の表示.....	31
通話中の「ピピピ」音.....	31
各種の便利な機能.....	32
2 チャンネルスキキャン機能.....	32
ワンタッチミュート（消音機能）.....	33
緊急アラーム機能.....	33
秘話通信機能.....	34
キーロック機能.....	35
通信の機能設定 ～設定モード～.....	36
オプションのマイクロホン取り付け.....	52
故障かな？と思う前に.....	54
オプション一覧表.....	54
定格.....	55
付録.....	56
操作の流れ（UC 通信方式、個別通信方式）.....	56
操作の流れ（設定モード）.....	57
キー操作早見表.....	58
索引.....	60

はじめに

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受けることが必要です。

本機をご使用になる前に、別紙「無線局登録申請の手引き」を参考にして、必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

注意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章110条に定められた罰則（一年以下の懲役又は百万円以下の罰金）が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

● ご利用にあたって

- ◎ 本機は、技術基準適合証明を取得し、ARIB規格に準拠していますので、他社のデジタル簡易トランシーバー（種別コード「3R」）との互換性を確保しています。ARIB規格以外の機能の互換性はありません。
- ◎ 本体背面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
- ◎ 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
- ◎ 本説明書には、ご購入時の状態（初期値）の標準的な設定での説明が記載されています。

● 免責事項

- ◎ 取扱説明書に記載の使用方法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。
- ◎ 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

● アフターサービス

- ◎ 正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがお買い上げいただきました販売店または八重洲無線株式会社国内営業部にご相談ください。

八重洲無線株式会社

国内営業部

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲/パークサイドビル

電話：03-6711-4055

構成品

◎ 本体 (VXD1)..... 1	◎ 取扱説明書 (本書)..... 1
◎ アンテナ※ (ATU-12J)..... 1	◎ 簡易操作ガイド..... 1
◎ ベルトクリップ (CLIP-25)..... 1	◎ 無線局登録申請書..... 1
◎ リチウムイオン電池パック (BT7X) . 1	◎ 無線局登録申請の手引き..... 一式
◎ 急速充電器 (CD-63)..... 1	◎ 保証書..... 1
◎ 急速充電器用 AC アダプター (PA-57A) ... 1	

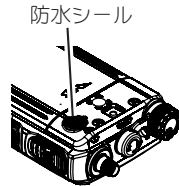
※ λ/4 短縮型、利得 2.14dB 以下

- ・保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることをご確認ください。
- ・不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

防水性について

本機は、IEC 国際規格 IP67 (防塵等級 6^{※1}、防水等級 7^{※2}) の防塵、防水性能を有しています。この防水性を末永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

- ◎ 裏面の電池フタを取り付けロックし、アンテナや MIC/SP 端子と USB 端子のキャップをしっかりと取り付けた状態で IP67 を確保しています。
- ◎ PTT スイッチやキーのラバー、MIC/SP 端子のキャップ、USB 端子のキャップ、防水シール、電池フタのパッキン部分などに、キズ、劣化、汚れ、剥がれがないか確認してください。
- ◎ 海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、洗面器に真水を入れて洗い流し、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- ◎ 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高压の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- ◎ 本機は、水中での使用はできません。



※ 1 : 粉塵が内部に侵入しない。

※ 2 : 加圧を加えない真水・静水に水深 1 m の位置で 30 分間没しても有害な影響を生じないこと。

電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル (例 : “CH01.” と “CH02.”) でのご使用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

安全上のご注意 ～必ずお読みください～

本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。



危険

誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



行ってはならない禁止事項です（例  分解禁止）。



必ず守っていただきたい注意事項です。



危険

●使用環境や条件について



自動車を運転しながら交信や操作をしない

事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。

運転者が使用するときには、車を安全な場所に止めてから操作してください。



航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では電源を切る

電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。



引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所で使用しない

発火事故や落下事故などの原因になります。

●トランシーバーの取り扱いについて



USB 端子や電源端子をはんだ付けやショートをしない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。

●電池パックの取り扱いについて



電池パックを火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・使用・放置しない

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



加熱したり、火の中へ投げ込まない

漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

次ページへ続く



危険



分解・改造・破壊しない

漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パックの端子にはんだ付けやショートをしない

線材で配線したりネックレスやヘアピンなどでショートをしないでください。

漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



警告

●トランシーバーの取り扱いについて



分解や改造をしない

本機は電波法に基づく無線局です。

分解や改造は違法ですのでおやめください。また、ケガ等の事故や故障の原因になります。



本機は、“IP67”の防浸構造になっておりますが、特に海水などがついたときは水で洗い流し、乾いた布などで拭きとる

性能や寿命を低下させる原因になります。



周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避ける

温度：－10℃～＋60℃、湿度：95%(35℃)の範囲以内で使用してください。



自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。



心臓ペースメーカー装着者は使用しない

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。



煙が出ている、変な臭いがするときは電源スイッチを切って、電池パックを外す

火災や故障の原因になります。お買い上げいただきました販売店または、八重洲無線株式会社国内営業部に修理をご依頼ください。



心臓ペースメーカー装着者に配慮し、人ごみでは電源を切る

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

●充電器の取り扱いについて



当社指定以外の充電器やACアダプターを使用しない

火災や故障の原因になります。



警告



引火性ガスの発生する場所で使用しない

発火事故の原因になります。



充電器から煙が出ている、変な臭いがする、電池パックが通常より発熱していると異常が感じられるときは、トランシーバー / 電池パックを外し AC アダプターをコンセントから外す

異常状態のまま使用すると、火災・破裂・発火などの原因になります。



充電器の端子をはんだ付けやショートをしない

線材で配線したり、ネックレスやヘアピンなどでショートをしないでください。

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

●電池パックの取り扱いについて



電池パックが漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険

化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者診断を受けてください。



電池パックは濡れた状態でトランシーバーや充電器に装着しない

トランシーバーや充電器の端子に水や海水が付着して故障の原因になります。



電池パックは指定機器以外の用途に使用しない

機器の故障だけでなく、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パックを電磁調理器等の中や上に置かない

電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



指定時間以上、電池パックを充電しない

満充電の状態で再度充電を行うと、過充電となり電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



指定時間を超過して充電が完了しないときは、ただちに電池パックの充電を中止する

電池パックの劣化だけでなく、漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



注意

●トランシーバーの取り扱いについて



アンテナやハンドストラップを持って、本体を振りまわしたり投げたりしない
本人や他人に当たり、ケガの原因になります。

また、本体の故障や破損の原因にもなります。

次ページへ続く

注意



アンテナを折り曲げたりしない
アンテナの変形や破損の原因になります。



強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない
故障の原因になります。



磁気カードなどをトランシーバーに近づけない
キャッシュカードやフロッピーディスクなどの内容が消去されることがあります。



人の多い場所では使用しない
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。



トランシーバーを直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しない
変形や変色等の原因になります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。
ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。

●充電器の取り扱いについて



分解や改造をしない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



水のかかる場所での使用や、濡れた手で触らない
故障や感電する原因になります。



火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・放置しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
周囲温度が+5℃～+35℃の範囲内にある所で使用してください。



指定以外の電池パックを充電しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電源コードの上に重いものを載せない
電源コードが傷つき、火災や感電などの原因になります。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
ケースが汚れたときは、乾いたやわらかい布で拭き取ってください。



注意

●電池パックの取り扱いについて



強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない

漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パック単体で、水や海水などにつけたり、濡らさない

破損や性能、寿命を低下させる原因になります。



電池パックを本体に装着したまま長時間放置 / 保管したり、周囲の温度が $-20^{\circ}\text{C} \sim +35^{\circ}\text{C}$ の、腐食ガスのない湿度の低い乾燥した場所以外での保管はしない

性能や寿命を低下させる原因になります。



直射日光の強い所や高温の場所での使用・放置をしない

発熱・発火・電池パックの性能や寿命を低下させる原因になります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かない

変形や変色等の原因になります。

ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管する

ケガなどの原因になります。

●オプションについて



指定以外のオプションを使用しない

故障や破損の原因になります。

当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、当社では一切責任を負いません。



オプションのマイクロホンを取り付けた際は、コードを強く引き伸ばしたままにしない

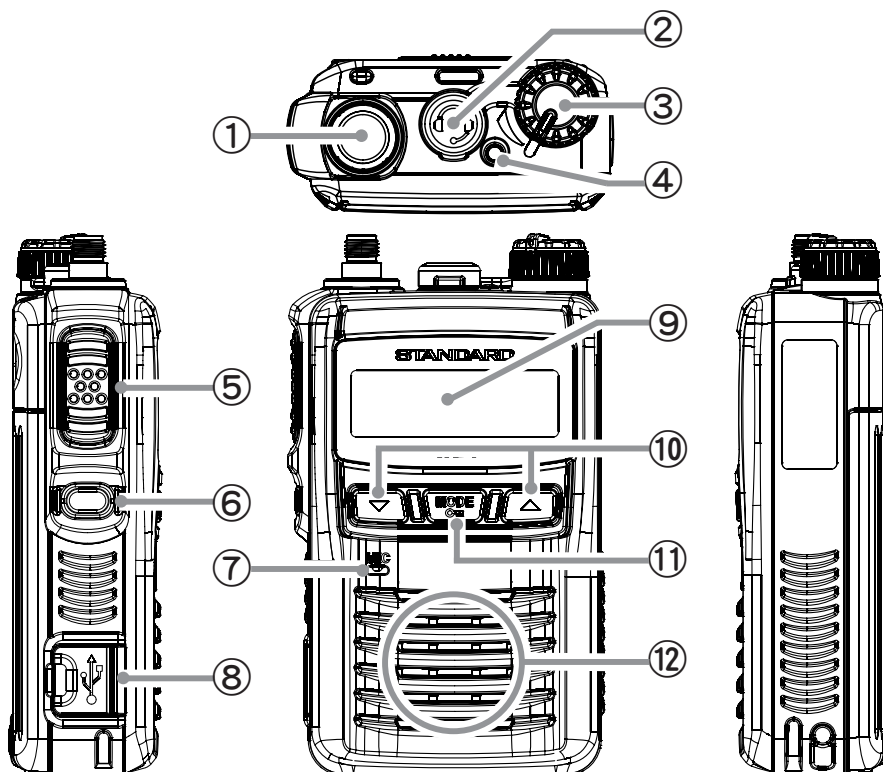
コードの断線などにより、故障の原因になります。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form.

U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

各部の名前と機能

本体



- ① アンテナコネクター 付属のアンテナを接続します。
- ② MIC/SP 端子 MIC/SP 端子キャップを外して、スピーカー・マイクなどのオプションを接続します。
- ③ 電源スイッチ / 音量調節ツマミ 電源の ON/OFF と音量の調節をします。
- ④ LED インジケーター 受信中は通信方式により“緑色”“水色”“青または白色”の点滅、送信中は“赤色”または“青色”に点灯します。電池パックの消耗時は、“赤色”で点滅します。
- ⑤ PTT（通話）スイッチ 押し続けている間、トランシーバーは送信状態になります。放すと待ち受け / 受信状態になります。

- ⑥ プログラマブルキー / 緊急キー
- ◎ 短押しすると“スキャン機能”（32 ページ参照）が動作します。再度押すと、スキャン機能が停止します。
補足 プログラマブルキーを設定モード“F14.P-KEY”で“MUTE”に設定すると、ワンタッチミュート（消音機能）として動作します（33、50 ページ参照）。
 - ◎ 長押しすると、緊急アラーム機能になります。初期値は OFF に設定されています（33 ページ参照）。
- ⑦ マイク
- この位置にマイクが内蔵されています。
- ⑧ USB 端子
- 付属の AC アダプターを接続して充電します。
- 注意** ○ 付属の AC アダプターの代わりに市販の USB ケーブルでパソコンの USB 端子に接続して充電することは可能ですが、なるべく付属の AC アダプターで充電することをお勧めします。USB ケーブルで充電する場合、USB2.0 以上（出力電流：500mA 以上）の USB 端子に接続して充電してください。この場合、付属の AC アダプターより充電時間が長くなります。市販の USB ケーブルはスマートフォン用のマイクロ USB ケーブルを使用してください。粗悪なケーブルを使用すると充電できないことがあります。
 - 当社指定の充電機器以外（市販の USB ケーブル等）のものでも使用できますが、それが起因する不具合等については保証対象外になります。トラブルが原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、当社では一切責任を負いません。
- ⑨ ディスプレイ
- 各種状態や情報を表示します。
 キー操作すると約 3 秒間バックライトが点灯します。
- ⑩ ▲ / ▼ キー
- ◎ 短押しするごとに、チャンネルを選択することができます。
 - ◎ 長押ししている間、自動でチャンネルがアップまたはダウンします。
- ⑪ MODE キー /  (キーロック) キー
- ◎ 短押しするごとに、チャンネル設定、UC 設定、秘話機能、（個別通信：呼び出し設定）を選択することができます。
 - ◎ 長押しすると、誤って各種キーに触れても設定が変わらないようにロックすることができます。もう一度長押しするとロックが解除されます。
 - ◎ [MODE] キーを押しながら“電源”スイッチをまわすことで設定モード画面になります。
- ⑫ スピーカー
- ここから相手の音声や操作音が聞こえます。

ディスプレイ



◀◀◀ アイコン表示部

◀◀◀ チャンネル / 呼び先等表示部

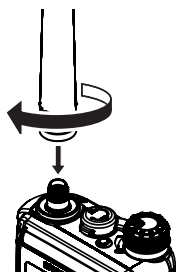
	アンテナ（電界強度表示 / 送信出力表示：21、22、28、29 ページ参照） 受信時：受信している電波の強さに応じて 4 段階で表示します。 送信時：HIGH（1W）, MID（0.5W）, LOW（0.2W） 出力に応じて点灯します。
	秘話（34 ページ参照） 秘話機能が“ON”のときに点灯します。
	ローパワー（41 ページ参照） 送信出力がローパワーモード（0.5W または 0.2W）のときに点灯します。
	2 チャンネルスキャン（32 ページ参照） 2 チャンネルスキャン機能が“ON”のときに点灯します。
	個別呼び出しベル（30 ページ参照） 個別呼び出しに設定するとベルが点灯します。個別呼び出しを受けるとベルが鳴ります。
	キーロック（35 ページ参照） 設定されたキーがロックされ、キーロック機能が動作している時に点灯します。
	一斉呼び出し（個別通信時：27 ページ参照） 呼び出しモードを「一斉に呼び出し」に設定した場合、点灯します。
	グループ呼び出し（個別通信時：27 ページ参照） 呼び出しモードを「グループ呼び出し」に設定した場合、点灯します。
	個別呼び出し（個別通信時：27 ページ参照） 呼び出しモードを「個別呼び出し」に設定した場合、点灯します。
	自動電源オフ（47 ページ参照） 2 時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を切ります。 1 分前に「ピピッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。
	電池パックの残量 電池パックの残量を 5 段階で表示します。 十分使えます まだ使えます 残りわずかです 空になりました すぐに充電または交換してください 電池パックが消耗すると、ディスプレイの電池マークが右記のように変化します。 電池マークが点滅し、LED インジケーターが赤色に点滅、警告音が「ピピッ」と鳴った時は、直ちに充電を行ってください。

アンテナの取り付け

アンテナコネクターに近い太い部分を持ち、時計まわりにしっかりと止まるまでまわします。

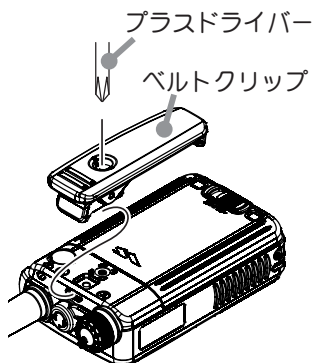
注意

- アンテナを取り付け / 取り外し時には、アンテナの上部を持ってまわさないでください。アンテナ内部で断線することがあります。
- アンテナを外した状態で送信しないでください。送信回路が破損することがあります。

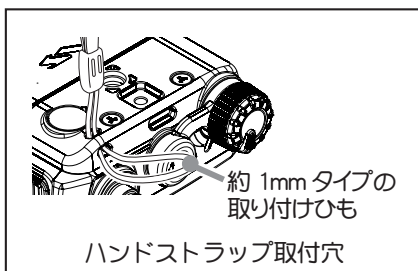
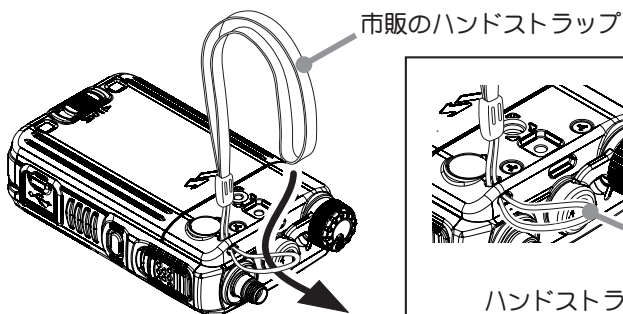


ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップ上面の凸部分とトランシーバー上面の凹部分に合わせ、ベルトクリップに装着されているビスで確実に取り付けます。



ハンドストラップの取り付け



注意

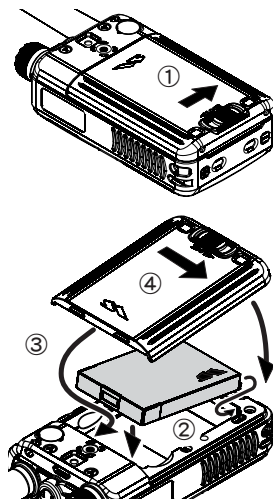
先端の取り付けひもが約 1mm タイプの丈夫なストラップを取り付けてください。粗悪なハンドストラップを取り付けると、ひもが切れて落下し故障やケガの原因になります。

電池パックを入れる / 取り出す

電池パックを入れる

- ① ロックレバーを右側にスライドし、フタを外します。
- ② 電池パックのVSロゴを上にして電極側から差し込みます。
- ③ フタのツメがある部分から差し込みます。
- ④ ロックレバーを左側にスライド（◀LOCKの刻印方向）して、フタをロックします。

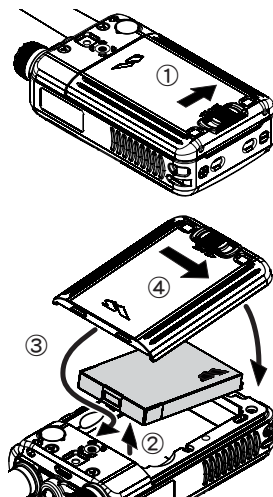
注意 フタを確実にロックしないと電池パックを落下させて、思わぬ事故や故障の原因になります。



電池パックを取り出す

- ① ロックレバーを右側にスライドし、フタを外します。
- ② 左右の窪み部分に指を入れ、電池パックをを起こして取り出します。
- ③ フタのツメがある部分から差し込みます。
- ④ ロックレバーを左側にスライド（◀LOCKの刻印方向）して、フタをロックします。

注意 フタを確実にロックしないとフタを落下させて、事故や故障の原因になります。



注意

電池パックのシールを剥がさないでください。シールを剥がすと電池パックが分解され、セルや電極がむき出しになりショートする原因になります。また、漏液・発熱・破裂・発火などの原因にもなります。

電池パックについて

電池/パック (BT7X) は、使い切らずに継ぎ足し充電が可能なりチウムイオンの電池/パックです。運用する時は満充電にしてからご使用ください。なお、満充電の状態で再度充電をすると過充電となり電池の寿命を短くする原因になりますのでご注意ください。

電池/パックの使用条件

- ◎ 周囲温度が $-10^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$ の範囲内で使用してください。低温になるほど電圧が低下し使用時間が短くなります。

電池/パックの保存方法

- ◎ 周囲温度が $-20^{\circ}\text{C} \sim +35^{\circ}\text{C}$ の、腐食ガスのない湿度の低い乾燥した場所で保存してください。
- ◎ 高温の場所で保存すると、劣化の進行を早めることがあります。なるべく低温状態で保管してください。
- ◎ 長期間放置 / 保管するときは、次のことを守ってください。
 - ・ トランシーバーから電池/パックを外す。
 - ・ 満充電または完全に使い切った状態にしない。
 - ・ 満充電にした状態からディスプレイに  (電池残量が約 50%) が表示されるまで使用してから保管する。
 - ・ 長期間放置 / 保管後は電池容量が低下していることがあるので、必ず充電してから使用する。
 - ・ 過放電を防止するために、半年に一回、補充電 (50%程度) をする。

電池/パックの特性について

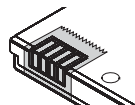
- ◎ 過充電 / 過放電などの無理な条件が重なると寿命が短くなります。
- ◎ 電池/パックは消耗品です。充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- ◎ 満充電にしても持続時間が短くなってきたときは電池/パックの寿命ですので、早めに新しい電池/パックをお買い求めください。

電池/パックのお手入れ

- ◎ 側面の端子を定期的に綿棒等で拭いてください。
- ◎ 電池/パックが汚れた場合には、シンナーやベンジンなどを使わず、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

使用済みの取り扱い

- ◎ 電極端子をセロ/ハンテープやビニールテープ等で絶縁してください。
- ◎ 電池/パックを分解しないでください。



電池/パックはリサイクルできます。

電池/パックが不要になった場合は廃棄せずに、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。



電池パックの充電方法

充電方法は、「電池/パック単体で充電する方法」と「電池/パックをトランシーバーに入れて充電する方法」があります。

下表は電池/パックを十分使い切った状態での充電時間になります。

充電方法	充電時間
電池/パック単体で充電する	約 180 分
電池/パックをトランシーバーに入れて充電する	約 160 分

補足

電池/パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。

お使いになる時のご注意

電池/パック単体で充電する場合の注意：

- ◎ 急速充電器 CD-63（以下「充電器」と表します）は必ず付属の AC アダプター PA-57A を使用してください。
- ◎ 充電温度範囲は“+5℃～+35℃”です。この範囲で充電してください。
充電中に充電温度範囲以外の環境になった場合は、LED インジケーターが黄色に点滅し待機状態になります。電池/パックを外さずそのまま放置しておき、充電温度範囲内に戻った場合は充電を開始します。また、充電温度範囲内で約 1 時間経過しても LED インジケーターが黄色点滅している場合は、電池/パックの寿命ですので新しい電池/パックと交換してください。

電池/パックをトランシーバーに入れて充電する場合の注意：

- ◎ トランシーバーの USB 端子に AC アダプターを接続すると充電機能のみとして動作します。外部電源としての機能はありません。
- ◎ トランシーバーの電源を切ってください。
電源を入れたままの状態で充電をすると、スピーカーから AC アダプター等のノイズが聞こえることがあります。また、規定の充電時間よりも長く掛かる場合があります。
- ◎ 付属の AC アダプターの代わりに市販の USB ケーブルでパソコンの USB 端子に接続して充電することは可能ですが、なるべく付属の AC アダプターで充電することをお勧めします。
USB ケーブルで充電する場合、USB2.0 以上（出力電流：500mA 以上）の USB 端子に接続して充電してください。この場合、付属の AC アダプターより充電時間が長くなります。市販の USB ケーブルはスマートフォン用のマイクロ USB ケーブルを使用してください。粗悪なケーブルを使用すると充電できないことがあります。
- ◎ 当社指定の充電機器以外（市販の USB ケーブル等）のものでも使用できますが、それが起因する不具合等については保証対象外になります。トラブルが原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、当社では一切責任を負いません。

共通の注意：

- ◎ 規定の充電時間以上経っても充電できない場合は、すぐに充電を終了してください。電池/パックの寿命です。新しい電池/パックに交換してください。
- ◎ 充電中に充電器やトランシーバー、AC アダプターが発熱する場合がありますが故障ではありません。
- ◎ 充電中にテレビやラジオにノイズが入ることがあります。できるだけ離してください。

電池パックの持続時間を延ばすには

VXD1 は小型軽量ながら一回の満充電で約 10 時間の運用を行うことができます。また VXD1 は、持続時間をさらに延ばすことができるスーパーセーブ機能（50 ページ参照）の搭載により、持続時間を約 3 時間延長することができます。また送信出力を三段階に切り替えることができますので、1W 運用から 0.5W または 0.2W のローパワーに切り替えて（41 ページ参照）運用することで、さらに持続時間をアップすることができます。

電池パック BT7X の持続時間*

スーパーセーブ機能 “OFF”	約 10 時間
スーパーセーブ機能 “ON”	約 13 時間

※電池持続時間は常温 / 常湿 : 「送信出力 1W 時、送信 5 : 受信 5 : 待ち受け 90」の測定極端に高温または低温の場所は持続時間が短くなります。

電池/パック単体で充電する（充電時間：約 180 分）

- ① AC アダプターのコネクターを充電器の側面にある電源ソケットに差し込みます（図1）。
- ② AC アダプターを AC コンセントへ確実に差し込むと、充電器の LED インジケータが約 1 秒間緑色に点灯し電源が入ります。
- ③ 充電器に電池/パックの端子側①から挿入し②へ差し込みます（図 2）。

正常な電池/パックであれば LED インジケータが赤色に点灯して充電を開始し、90% 充電で緑色点滅、充電が完了すると緑色に点灯します。

動作	LED 色
電源オン	約 1 秒間緑色点灯
充電中	赤色点灯
90%以上充電	緑色点滅
充電終了	緑色点灯
エラー※ ¹	赤色点滅
待機※ ²	黄色点滅

※ 1：通常、電池/パックを入れ直すと問題が解決します。解決しない場合は、電池/パックの寿命です。

※ 2：電池/パックの温度が高すぎるか低すぎます。または過放電しています（14 ページ参照）。

- ④ 充電が完了したら充電器から電池/パックを取り外します。

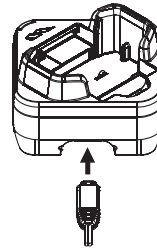
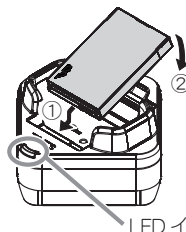


図 1：コネクターの先端形状を確認し差し込む



電池/パックの端子側①から挿入し②へ差し込みます。

LED インジケータ

図 2：電池/パック単体で充電する

電池パックをトランシーバーに入れて充電する（充電時間：約 160 分）

注意

充電温度範囲は“+5℃～+35℃”です。充電中、充電温度範囲以外の環境になった場合、LED インジケーターの有無にかかわらず充電を停止します。その後、充電温度範囲内に戻った場合は充電を開始します。

- ① AC アダプターのコネクターを充電器の側面にある電源ソケットに差し込みます（図 3）。
- ② AC アダプターを AC コンセントへ確実に差し込むと、充電器の LED インジケーターが約 1 秒間緑色に点灯します。
- ③ トランシーバーの電源をオフにし、充電器にトランシーバーを差し込みスタンドとして使用します（図 4）。

補足

充電器をスタンドとして使用するため、充電器の充電機能は動作しません。トランシーバーの充電回路で充電を行います。

確実に差し込まれると、トランシーバーの LED インジケーターが赤色に点灯し充電を開始、充電が完了すると消灯します。

※：電池パックを入れ直してください。解決しない場合は、電池パックの寿命です。

充電動作	LED 色
充電中	赤色点灯
充電終了	消灯
エラー※	赤色点滅

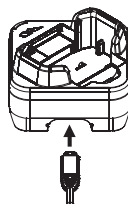


図 3：コネクターの先端形状を確認し差し込む



トランシーバーの電源をオフにします。

LED インジケーター



「カチッ」とロックがかかるまで確実に差し込んでください。

図 4：充電器をスタンドとして使用する

- ④ 充電が完了したら充電器からトランシーバーを取り外します。

トランシーバーに直接 AC アダプターを接続して充電する（充電時間：約 160 分）

- ① トランシーバーの電源をオフにし、側面にある USB 端子のキャップを外して、AC アダプターのコネクターを差し込みます。

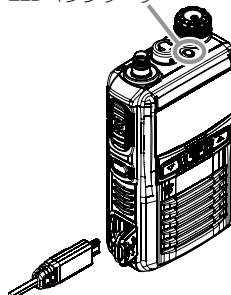
LED インジケーター

- ② AC アダプターの電源プラグを AC コンセントに差し込みます。

確実に差し込まれると、トランシーバーの LED インジケーターが赤色に点灯し充電を開始、充電が完了すると消灯します。

充電動作	LED 色
充電中	赤色点灯
充電終了	消灯
エラー※	赤色点滅

- ③ 充電が完了したらトランシーバーから AC アダプターを外します。



デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R	35 1MHz	30	陸上及び 日本周辺海域
登録局（上空利用）	3S		5	陸上及びその上空、 日本周辺海域

本機は種別コード「3R」の“登録局”として開発されたもので、スカイスポーツ等、上空でのご利用はできません。

チャンネル構成とコールチャンネル

本機のチャンネル構成（ARIB 無線設備の種別コード「3R」）

◎ チャンネル構成（通話チャンネル）

“CH01.” ～ “CH30.” の 30 チャンネルが利用可能です。

◎ コールチャンネル

“CH15.CALL” は「コールチャンネル」に設定されています。

コールチャンネルでは、ユーザーコード（23 ページ参照）は自動的に“000”に設定され、秘話通信（34 ページ参照）は自動的に解除されますので、ARIB 規格で定めている「呼出チャンネル」として、ご利用いただけます。

注意

コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。

補足

コールチャンネルでは [MODE] キーが無効になりますので、ユーザーコードおよび、秘話通信の設定は、コールチャンネルを除く他のチャンネルでのみ有効となります。

◎ 上空用チャンネルモニター（受信専用）

上空用チャンネルの5チャンネル（CHS1. ～ CHS5.）を受信することができます。

上空用チャンネルで PTT スイッチを押すと「ピピピッ」と警告音とディスプレイに“TX INH”が表示され送信できません。

通信方式

VXD1 では、下記の二通りの通信方式で運用することができます。

なお、初期値は UC（ユーザーコード）通信に設定されていますので、通信相手と同じ通信通話方式に設定してからご使用ください。

◎ UC（ユーザーコード）通信（18 ページ参照）

同じチャンネルで、同じ UC（ユーザーコード）を設定している者同士が通話できる通信方式。

◎ 個別通信（24 ページ参照）

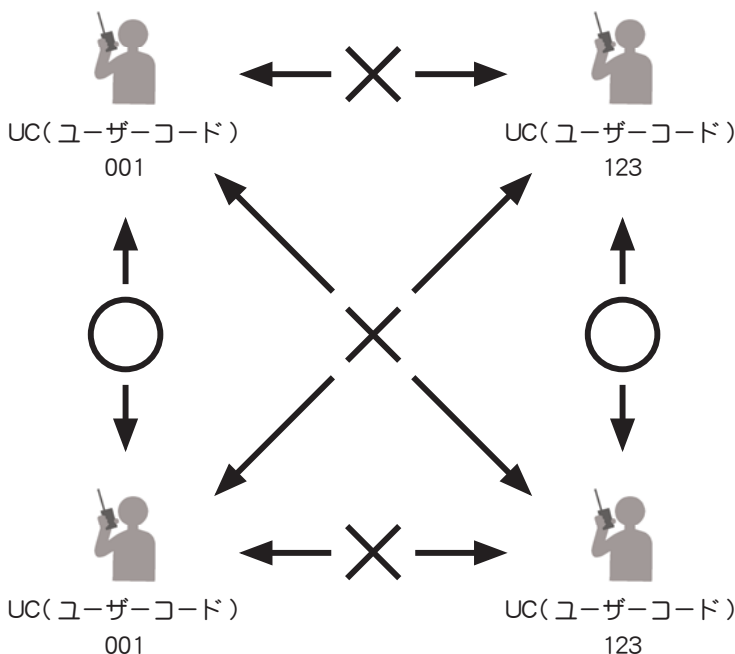
同じチャンネルで、同じ UC（ユーザーコード）を設定している特定の相手やグループだけを呼び出して通話できる方式。

UC（ユーザーコード）通信のしかた

全員が同じチャンネル番号にあわせていても、同じ UC（ユーザーコード）を設定している者同士だけが、通話することができる通信方式です。

ユーザーコードの設定方法は、次ページを参照してください。

- ◎ ユーザーコードは、3桁の数字で構成されていて、“000” ～ “511” の間で決めることができます。
- ◎ ユーザーコード“000”は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる信号も受信できますが、送信時は“000”を設定している相手としか通信することができません。
- ◎ UC 通信方式は、ARIB 規格で規定されており、種別コード 3R の他社製デジタル簡易無線トランシーバーと通話互換があります。
- ◎ 本機の UC（ユーザーコード）は、初期値では“000”に設定されています。
- ◎ 他ユーザーとの混信を避けるため、UC（ユーザーコード）は“000”以外に設定することをお勧めします。



UC（ユーザーコード）通信の設定と運用手順

下記の設定と運用手順で操作を行ってください。

コールモードの「C01 通信方式」を“UC (UC 通信方式)”に設定する
(初期値は“UC”に設定されています)

37 ページ参照

電源スイッチを左にまわし切り、
電源を切っておく

電源スイッチを右にまわして、電源を入れる

音量調節ツマミをまわして、音量を調節する

[MODE] キーを押して、ユーザーコードを確認する
ユーザーコードを設定する場合は 23 ページを参照

[▲]または[▼]を押して、チャンネルをあわせる

PTT スイッチを押して、送信（通話）する

PTT スイッチを放して、受信する

電源スイッチを左にまわしきって電源を切り、終了する

UC (ユーザーコード) 通信方法

① 電源を入れます

電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。

補足

ディスプレイに起動画面が約 1 秒間表示され「ピポツ」と電子音が鳴り、ディスプレイに現在のチャンネルと“UC”が表示されます。



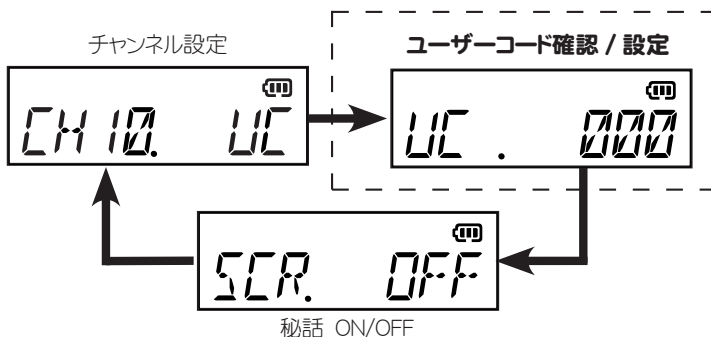
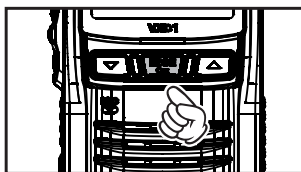
② 音量を調節します

音量調節ツマミを 10 ～ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。



③ ユーザーコードを確認します

[MODE] キーを押すと、現在設定されているユーザーコードがディスプレイに表示されますので、相手局と同じコードになっているかを確認します。



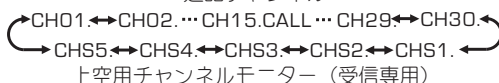
注意

コードが異なる場合は、交信できません。
必ず相手局と同じユーザーコードに設定
してください (23 ページ参照)。

④ チャンネルをあわせます

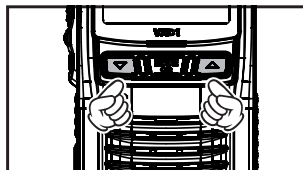
[▲] または [▼] キーを押して、CH01. ~ CH30. の通話チャンネルから、相手と同じチャンネルにあわせます（17 ページ参照）。

通話チャンネル



補足

“CH01.” にあわせたい時、「ポピピ」というビープ音が鳴ります。トランシーバーを腰につけていた状態でも“CH01.”を確認することができます。



チャンネル番号

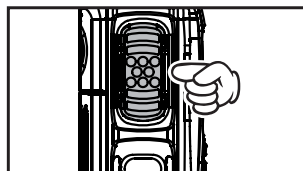


⑤ 送信（通話）します

PTT（通話）スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

補足

- 送信中 “” が点灯します。近距離で交信する場合は、送信出力を“MID”または“LOW”に切り替えることができます（41 ページ参照）。
- 混信を防ぐため、送信開始直前には、キャリアセンス機能（31 ページ参照）が自動的に動作します。
- マイクロホンと口元の間隔は、5cm 位が適当で、普通の声で話します。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声が割れたり、歪むことがあります。
- 送信中は、LED インジケーターが赤色または青色に点灯します（31 ページ参照）。
- 連続送信時間は5分未満と決められています。本機では送信を開始してから約4分 50 秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から5分が経過する前に、自動的に送信が止まります。そのまま PTT スwitch を押し続けた場合、送信を開始してから5分間経過すると、その後1分間は送信禁止状態になります。アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。



“” が点灯



送信出力	表示
HIGH (1W)	
MID (0.5W)	
LOW (0.2W)	

送信出力を“MID”または“LOW”に設定した場合は、ディスプレイに“L”が点灯します。

⑥ 相手の音声を受信します

PTT（通話）スイッチを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足

信号を受信すると、LED インジケーターが点滅し（31 ページ参照）、電波の強さに応じて、ディスプレイの“” が点灯します（最大 4 本）。

信号を受信すると点灯

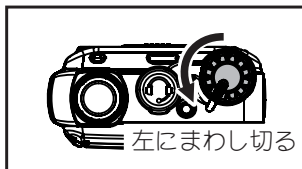


⑦ 電源を切ります

電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

補足

一週間以上使用しない場合は、電池パックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。



左にまわし切る

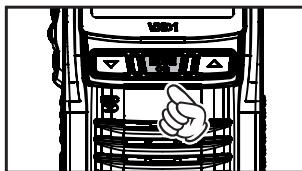
UC (ユーザーコード) の設定方法

“UC (ユーザーコード)” を “000” ～ “511” の間から設定することができます。
相手局と同じチャンネルにあわせていても、ユーザーコードが異なる場合は交信することができませんので、必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください。なお、設定したユーザーコードは全てのチャンネルで共通になります。

- ① [MODE] キーを 1 回押して、“UC. xxx” を表示させます。

補足

- 個別通信方式の場合は、[MODE] キーを 4 回押して、“UC. xxx” を表示させます。
 - “xxx” の部分は、現在設定されているユーザーコードが表示されます。
- 初期値は “000” が設定されています。



- ② [▲] または [▼] キーを押して確定します。
- ③ ユーザーコードが点滅中に [▲] または [▼] キーを押して、希望のユーザーコードに設定します。

[▲] キーを押し続けるとアップ方向に早送りします。

[▼] キーを押し続けるとダウン方向に早送りします。

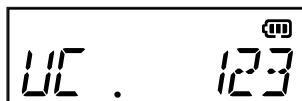
補足

設定できるユーザーコードは “000” ～ “511” です。

- ④ 点滅中に PTT スイッチを押すか、約 5 秒間放置するとユーザーコードが確定しチャンネル表示に戻ります。



ユーザーコードが点滅

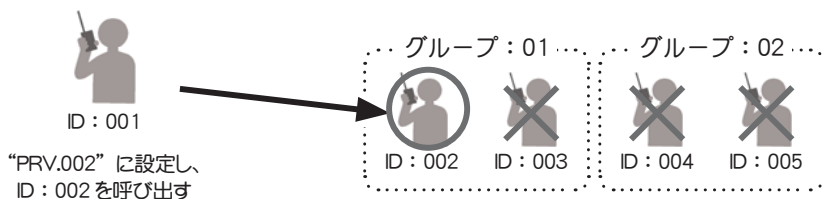


個別通信のしかた

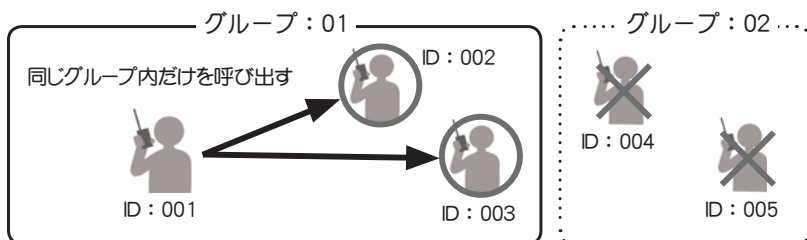
全員が同じチャンネル番号と UC(ユーザーコード) に合わせ、特定の相手だけを呼び出したり(全員を一斉に呼び出すことも可能)、特定のグループに属する全ての局を呼び出して通話することができる通信方式です。

この通信方式を利用するには、各トランシーバーに個別の ID 番号(自局 ID とグループ ID)を設定する必要があります。ID 番号の設定方法は、設定モードの「C02.MY-ID」(37 ページ)と「C03.MYGRID」(38 ページ)をご覧ください。

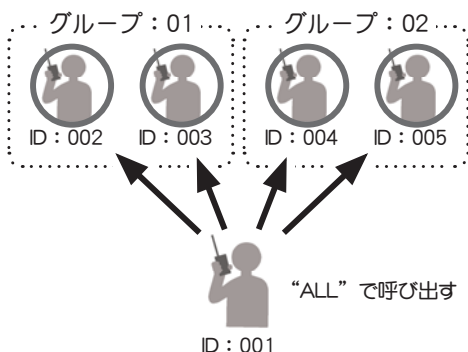
特定の相手だけ(個別)を呼び出す (PRV)



特定のグループに属する全員を呼び出す (GRP)

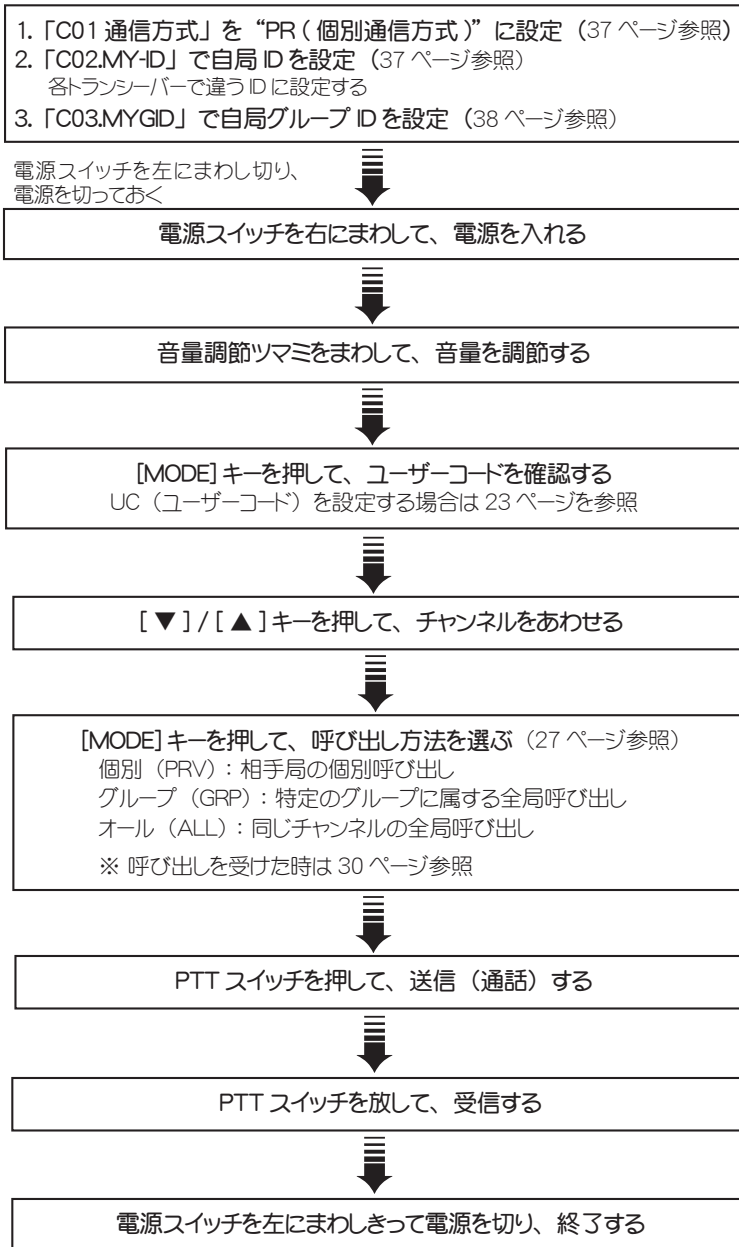


全員を一斉に呼び出す (ALL)



個別通信の設定と運用手順

下記の設定と運用手順で操作を行ってください。



呼び出し方法

① 電源を入れます

電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。

補足

ディスプレイに起動画面が表示され「ピポッ」と電子音が鳴ります。
ディスプレイに現在の呼び出し先が表示されます。



② 音量を調節します

音量調節ツマミを 10 ～ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が必要な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。



③ チャンネルをあわせませす

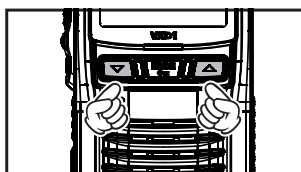
[▲] または [▼] キーを押して、CH01. ～ CH30. の通話チャンネルから、相手と同じチャンネルにあわせませす（17 ページ参照）。

通話チャンネル

CH01 ↔ CH02 ... CH15.CALL ... CH29 ↔ CH30.
CHS5 ↔ CHS4 ↔ CHS3 ↔ CHS2 ↔ CHS1.
上空用チャンネルモニター（受信専用）

補足

“CH01” にあわせれた時、「ポピピ」というピープ音が鳴ります。トランシーバーを腰につけていた状態でも“CH01”を確認することができます。

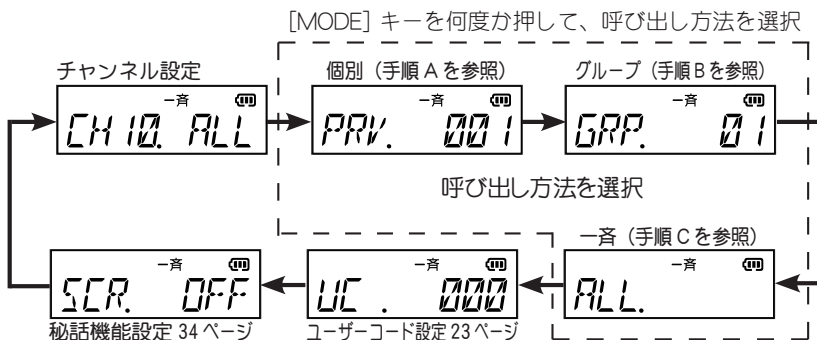
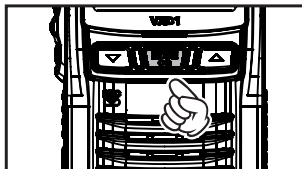


④ 呼び出し方法を選びます

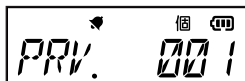
[MODE] キーを何度か押して、呼び出し方法を選びます。

補足

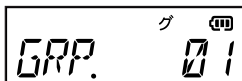
[MODE] キー押してから 5 秒間放置するとチャンネル表示に戻ります。



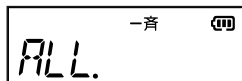
個別で相手局を呼び出す



グループを呼び出す



一斉に呼び出す



手順 A 個別で相手局を呼び出す

呼び出したい相手局の個別番号 (PRV ID) を設定して呼び出します。

1. [MODE] キーを 1 回押すと、個別設定の画面 (PRV.) が表示されます。
2. [▲] または [▼] キーを押して確定します。
3. 個別番号が点滅中に [▲] または [▼] キーを押して個別番号を設定します。
[▲] キーを押し続けるとアップ方向に早送りします。
[▼] キーを押し続けるとダウン方向に早送りします。
4. PTT スイッチを押すか、約 5 秒間放置すると個別番号が確定しチャンネル表示に戻ります。

手順 B グループを呼び出す

同じグループ内に属する全員を呼び出します。

1. [MODE] キーを 2 回押すと、グループ設定の画面 (GRP.) が表示されます。
2. PTT スイッチを押すか、約 5 秒間放置するとグループが確定しチャンネル表示に戻ります。

次ページに続く

手順 C 一斉に呼び出す

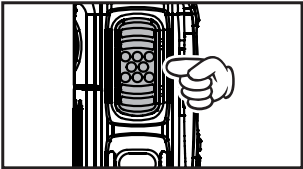
グループに関係なく一斉に呼び出します。

- 1. [MODE] キーを 3 回押すと、一斉呼び出しの画面 (ALL) が表示されます。
- 2. PTT スイッチを押すか、約 5 秒間放置するとオールが確定しチャンネル表示に戻ります。

⑥ 送信 (通話) します

PTT (通話) スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

- 補足
- 送信中 “” が点灯します。近距離で交信する場合は、送信出力を “MID” または “LOW” に切り替えることができます (41 ページ参照)。
 - 混信を防ぐため、送信開始直前には、キャリアセンス機能 (31 ページ参照) が自動的に動作します。
 - マイクロホンと口元の間隔は、5cm 位が適当で、普通の声で話します。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがあります。
 - 送信中は、LED インジケーターが赤色または青色に点灯します (31 ページ参照)。
 - 連続送信時間は 5 分未満と決められています。本機では送信を開始してから約 4 分 50 秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から 5 分が経過する前に、自動的に送信が止まります。そのまま PTT スイッチを押し続けた場合、送信を開始してから 5 分間経過すると、その後 1 分間は送信禁止状態になります。アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。



“” が点灯



送信出力	表示
HIGH (1W)	
MID (0.5W)	
LOW (0.2W)	

送信出力を “MID” または “LOW” に設定した場合は、ディスプレイに “” が点灯します。

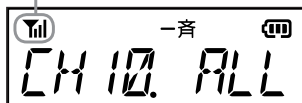
⑦ 相手の音声を受信します

PTT（通話）スイッチを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足

- 信号を受信すると、LED インジケーターが水色に点滅し、電波の強さに応じて、ディスプレイの“

信号を受信すると点灯

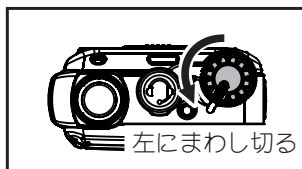


⑧ 電源を切ります

電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

補足

一週間以上使用しない場合は、電池/パックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池/パックを外してください。



呼び出しを受けたとき

個別通信方式で呼び出しを受けると、ディスプレイ表示の点滅、電子音（着信ベル）、LED の点滅により、呼び出しがあったことを知らせます。

- ◎ すぐに応答することができなかった場合“不在着信状態”となり、呼び出してきた相手局 ID の表示が点滅します。その状態で PTT スイッチを押すと、相手局を呼び返すことができます。
- ◎ 不在着信状態をキャンセルする場合は、[MODE] キーを短押ししてください。

補足

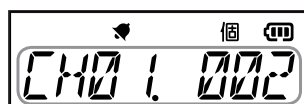
個別通信方式（個別、グループ、一斉）による LED の表示については、31 ページの“LED インジケーターの動作概要”を参照してください。

◎個別呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出してきた相手局の ID が表示され、スピーカーから電子音が一回鳴り、受信中は LED インジケーターが水色に点滅し、待ち受け時は点灯します。

補足

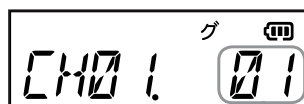
- 個別呼び出しで呼ばれたときは、呼び出してきた相手局の ID が点滅表示され、LED インジケーターが水色に点灯したままになります（不在着信機能）。応答する場合は、そのまま PTT スイッチを押すと相手を呼び出します。不在着信は最新1件が表示されます。
- 個別呼び出しの点滅と LED インジケーターの点灯は、パネル面のキーを押すまで続きます。



チャンネルと
相手局の ID が点滅

◎グループ呼び出しを受けたとき

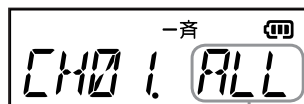
ディスプレイに、呼び出されたグループの ID が表示され、受信中は LED インジケーターが水色に点滅し、待ち受け時は点灯します。



グループ ID

◎一斉呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“ALL”が表示され、LED インジケーターが水色に点滅します。



ALL が表示

通信時に動作する機能に関して

キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。

送信禁止時はディスプレイに“WAIT”が表示され、「ピピッ...」と警告音を発し送信することができません。受信を示すLEDインジケータが消えてから再度送信を開始してください。

補足

“WAIT”の表示の状態でPTTスイッチを押し続けた場合、受信電波がなくなり次第、“WAIT”表示がチャンネル表示に切り替わり自動的に送信状態になります。

本機は、デジタル簡易トランシーバー登録局としてキャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARIB 規格により、送信ごとにキャリアセンスを行います。

LED インジケータによる通話状態の表示

本機は、動作状態を視覚的にわかりやすくお使いいただくために、三原色の LED を使用し、動作状態を以下のように示します。

LED の色・状態	通信（動作）状況
緑色点滅	UC 通信受信時、他局通信時
赤色点滅	電池/パック消耗時
赤色点灯	UC 通信送信時、個別通信送信時
青色点滅	秘話 UC 通信受信時、秘話個別通信受信時
青色点灯	秘話 UC 通信送信時、秘話個別通信送信時
水色点滅	個別通信受信時
水色点灯	通話応答待ちの時（および不在着信時）
白色点滅	緊急アラーム動作時及び緊急信号着信時

通話中の「ピピピ」音

本機の連続送信時間は“5分”で、約4分 50 秒で予告音「ピピピ」が鳴ります。

送信中に「ピピピ」という電子音が鳴った場合、速やかに通話を終了してください。

送信を継続すると約 10 秒後に自動的に送信が止まり、通話が中断されます。

なお、自動的に送信が中断された場合、その後1分間は送信することができません。

各種の便利な機能

2 チャンネルスキャン機能 ～2つのチャンネルで待ち受けする～

現在の通話チャンネルと事前に設定したスキャンチャンネル（初期値：CH15）を交互に受信しながら、待ち受けすることができます。

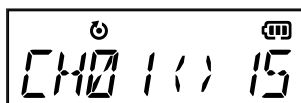
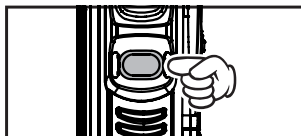
2 チャンネルスキャン機能の初期値は“OFF” に設定されています。設定モード“F06. SCAN” の設定を“ON” にしてください(43 ページ参照)。

[プログラマブル]キーを短押しします。

ディスプレイに“” が点灯し、“通話チャンネル”と“スキャンチャンネル”が表示され、スキャン機能が動作します。

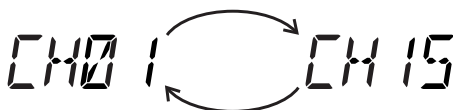
補足

- スキャンしたいチャンネルを設定することができます（“F07.SC-CH” 参照）。
- スキャン動作中に PTT スイッチを押したときの、送信チャンネルを設定することができます（“F08.SC-PT” 参照）。
- スキャン動作中に通話を行った後、約5秒後にスキャンを再開させるかどうかを設定することができます（“F09.SC-RX” 参照）。
- [プログラマブル]キーの短押し時の機能を“2 チャンネルスキャン”から“ワンタッチミュート”に変更することができます。（“F14. P-KEY” 参照）。



通話チャンネル CH01

スキャンチャンネル CH15



通話チャンネルとスキャンチャンネルを交互に受信しながら待ち受けします。

◎ 2 チャンネルスキャンの動作を停止するには
スキャン中に [プログラマブル] キーを短押しします。

◎ 2 チャンネルスキャン機能を OFF にするには
設定モード“F06. SCAN” の設定を“OFF” にします。

ワンタッチミュート（消音機能） ～ワンタッチで音量をオフにする～

音量調節ツマミをまわさずに[プログラマブル]キーを短押することでワンタッチで音量をオフにすることができます。もう一度短押すとワンタッチミュートは解除されます。

[プログラマブル]キーの初期値は“SCAN”に設定されています。あらかじめ、設定モード“F14. P-KEY”を“MUTE”の設定にしてください(50 ページ参照)。

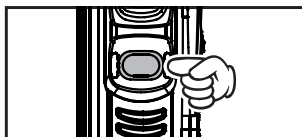
[プログラマブル]キーを短押します。

ミュート中はディスプレイに“MUTE”が点灯し、音量をオフにします。

◎ワンタッチミュートを解除するには再度、[プログラマブル]キーを短押します。

他のキーを押して解除できます。

ミュート中、3分経過すると自動的に解除します。



注意

緊急アラーム時にワンタッチミュートは動作しません。

緊急アラーム機能 ～緊急を知らせる～

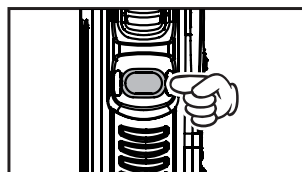
緊急事態をアラーム音とLEDの表示で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して他の仲間にも緊急を知らせることができます。

緊急アラーム機能の初期値は“OFF”に設定されています。設定モード“F05.EMERG”の設定をUC通信方式の場合は、“EBEEP”に、個別通信方式の場合は、“EMRTX”“SILNT”“BP+T”のいずれかに設定してください。UC通信方式に“SILNT”か“EMRTX”を設定した場合は、[プログラマブル]キーを長押ししたときに「ポポッ」とエラー音が鳴り、何も動作しません(42 ページ参照)。

[プログラマブル]キーを長押し（緊急キー）します。

補足

- 42 ページに記載の“F05.EMERG”で設定した動作をおこないます。
- 緊急キーはキーロックされません。



◎緊急信号を受信したとき

個別通信方式に緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局のIDを表示し、LEDインジケーターが白色で点滅します。

さらに、しばらく何も操作をおこなわないと、電子音が鳴り続けます。

補足

- 電子音は、いずれかのキーを押すと止まります。
- 緊急キーを押すと、緊急受信モードは解除されますが、再び緊急信号を受信すると、再度電子音が鳴り始めます。

緊急信号を受信したときに、PTTスイッチを押して送信すると、自動的に“一斉呼び出し”（同じチャンネルにあわせている、全ての局を呼び出す）に切り替わります。

◎緊急アラームの動作を停止するには

電源スイッチを左にまわし切り、電源を切ります。

秘話通信機能

設定した 32,767 通りの秘話コードが一致するトランシーバー同士のみ交信することができる機能です。

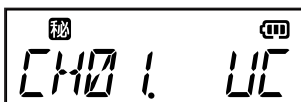
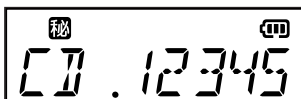
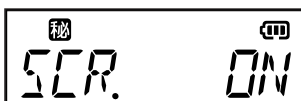
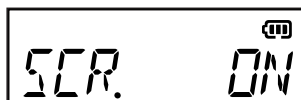
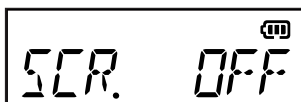
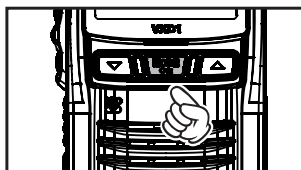
秘話機能を利用する際は、秘話コードの設定が必要です。

初期値は、秘話コードが“00001”に設定されていますが、ご使用の際に通話セキュリティを十分に確保するためには、下記の方法で再設定することをお勧めします。なお、設定した秘話コードは全てのチャンネルで共通になります。

注意

チャンネルが“CH15.CALL”のときは、MODE 設定は無効になり秘話機能の設定はできません。秘話機能を設定する場合は、他のチャンネルに設定してから行ってください。

- ① [MODE] キーを何度か押して、“SCR.OFF”を表示させます。
- ② [▲] または [▼] キーを押すと、“SCR.OFF”が点滅します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して“SCR.ON”にあわせます。
- ④ [MODE] キーを押すと、秘話機能が動作します。
ディスプレイに「秘」が点灯します。
- ⑤ [▲] または [▼] キーを押すと、“CD.00001”が点滅します。
- ⑥ [▲] または [▼] キーを押して、00001 ~ 32767 から希望のコードにあわせます。
[▲] キーを押し続けるとアップ方向に早送りします。
[▼] キーを押し続けるとダウン方向に早送りします。
- ⑦ 点滅中に PTT スイッチを押すか、約 5 秒間放置すると秘話コードが確定しチャンネル表示に戻ります。



キーロック機能

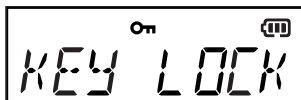
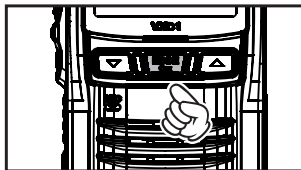
誤って各キーを押しても、設定が変わらないようにするキーロックが動作します。

[MODE/ **On**] キーを長押しします。

ディスプレイに“KEY LOCK”が表示され“**On**”が点灯し、キーがロックされます。

補足

- キーロックが動作中に各キーを押すと、ビープ音が鳴ると同時に“KEY LOCK”が表示され、ロック中であることを知らせます。
- キーロック機能は“前面”の[▲][▼][MODE]が設定されます。
- キーロック動作中に有効なスイッチやキー、ツマミは下記を参照してください。
 - ・電源スイッチ / 音量調節ツマミ
 - ・PTTスイッチ
 - ・緊急キー（キー長押し時のみ）



◎ロックを解除するには

ロックが動作中に[MODE/ **On**] キーを長押しします。

ロックが解除され、ディスプレイの“**On**”表示が消えます。

通信の機能設定 ～設定モード～

通信方式、各種 ID、各機能の設定を行うことができます。

項目	表示	初期値	設定値	機能
C01 通信方式	C01. CLMOD	UC	UC/PR	通信方式の選択
C02 自局ID	C02. MY-ID	001	001 ～ 200	自局IDの設定
C03 グループID	C03. MYGID	01	01 ～ 30	グループIDの設定
F01 ビープレベル	F01. BEEP	08	00 ～ 15	操作音（ビープ音）の音量設定
F02 外部マイク感度	F02. EXMIC	LV 0	-18/-12/-6/-3/0 +3/+6/+10	外部マイクの感度設定
F03 内部マイク感度	F03. INMIC	LV 0	-18/-12/-6/-3/0/ +3/+6/+10	本体内部マイクの感度設定
F04 送信出力	F04. TXPWR	HIGH	OFF/LOW/MID/HIGH	送信出力の設定
F05 緊急モード	F05. EMERG	OFF	EMRTX/EBEEP/OFF/ BP+T/SILNT	緊急モードの動作設定
F06 スキャン	F06. SCAN	OFF	OFF/ON	スキャン機能の設定
F07 スキャンCH	F07. SC-CH	CH15	CH01 ～ CH30	スキャンチャンネル番号の設定
F08 スキャンPTT	F08. SC-PT	STDBY	STDBY/SCH	スキャン機能の動作中のPTT動作設定
F09 スキャン受信設定	F09. SC-RX	ON	ON/OFF	スキャン機能の着信後のスキャン再開設定
F10 自動電源オフ	F10. AT-P0	OFF	OFF/ON	電源切れ忘れ防止機能の設定
F11 PTT ホールド	F11. PTHLD	OFF	OFF/ON	PTT ホールド動作の設定
F12 外部スピーカー設定	F12. E-SPK	STD	STD/OPT	外部スピーカーの切り替え設定
F13 スーパーセーブ	F13. SSAVE	OFF	OFF/ON	電池パックの持ち時間をセーブ
F14 プログラムブリーキー	F14. P-KEY	SCAN	SCAN/MUTE	プログラマブルキーの設定
S01 シリアル番号確認	S01. S/N	—	—	販売店および営業所サービス確認用
S02 CSMコード確認	S02. CSM	—	—	販売店および営業所サービス確認用
F99 設定リセット	F99. RESET	OFF	OFF/ON	設定モードの設定値を初期値（ご購入時の状態）に戻します

設定モードの具体的な操作方法は、37 ページ以降を参照してください。

C01.CLMOD（通信方式）

UC 通信方式と個別通信方式を切り換えることができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの“C01.CLMOD”が表示され [MODE] キーを放します。

[MODE] キーを長押しするごとに設定モードの項目を後退します（F99.RESET → S02.CSM... に後退します）。

- ② [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。

- ③ [▲] または [▼] キーを押して、希望の通信方式を選択します。

UC（初期値）	UC 通信方式で運用するとき。
PR	個別通信方式で運用するとき。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ④ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の通信方式（点滅）



希望の通信方式（点滅）

C02.MY-ID（自局 ID） ～個別通信方式で使用する設定です～

トランシーバーに設定されている自局の ID（自局の個別番号）を変更することができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの“C01.CLMOD”が表示され [MODE] キーを放します。

- ② [MODE] キーを数回押して、“C02.MY-ID”を選択します。

[MODE] キーを長押しするごとに、設定モードの項目を後退します。

- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。

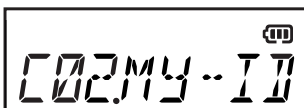
- ④ [▲] または [▼] キーを押して、希望の ID を選択します。

[▲] または [▼] キーを長押しすると早送りすることができます。

001(初期値) ～ 200	自局 ID を設定します。
------------------	---------------

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の自局 ID（点滅）

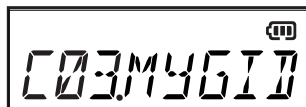


希望の自局 ID（点滅）

C03.MYGID (グループ ID) ～個別通信方式で使用する設定です～

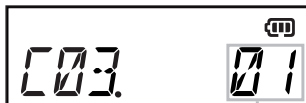
トランシーバーに設定されているグループ ID を変更することができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。



- ② [MODE] キーを数回押して、“C03.MYGID” を選択します。

[MODE] キーを長押しするごとに、設定モードの項目を後退します。



現在のグループ ID (点滅)

- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。

- ④ [▲] または [▼] キーを押して、希望の ID を選択します。



希望のグループ ID (点滅)

01(初期値)～30 グループ ID を設定します。

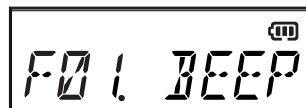
[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。

F01. BEEP (ビープレベル)

キーやスイッチを押したときに鳴る確認音の、音量を設定することができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。



- ② [MODE] キーを数回押して、“F01. BEEP” を選択します。

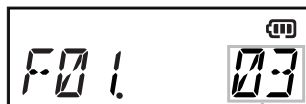
[MODE] キーを長押しするごとに、設定モードの項目を後退します。



現在の音量レベル (点滅)

- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。

- ④ [▲] または [▼] キーを押して、希望の音量を選択します。



希望の音量レベル (点滅)

00～08(初期値)～15 音量レベルを調整します。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。

F02.EXMIC（外部マイク感度）

外部マイクロホンのマイク感度を設定することができます。

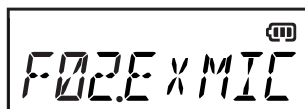
- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F02.EXMIC” を選択します。
[MODE] キーを長押しすることにより、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して、希望の感度を選択します。
マイク感度は、下記の 8 段階から選択することができます。

(低)-18⇄-12⇄-6⇄-3⇄0(初期値)⇄+3⇄+6⇄+10(高)

外部マイクの感度を調整します。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在のマイク感度（点滅）



希望のマイク感度（点滅）

F03.INMIC（内部マイク感度）

トランシーバー本体に内蔵してあるマイクのマイク感度を設定することができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE]キーを押しながら電源を入れると、“VXD1”→“SET.MODE”が表示され、その後、設定モードの“C01.CLMOD”が表示され[MODE]キーを放します。



- ② [MODE]キーを数回押して、“F03.INMIC”を選択します。

[MODE]キーを長押しすると、設定モードの項目を後退します。



現在のマイク感度（点滅）

- ③ [▲]または[▼]キーを押して、設定画面の表示にします。

- ④ [▲]または[▼]キーを押して、希望の感度を選択します。

マイク感度は、下記の8段階から選択することができます。



希望のマイク感度（点滅）

(低)-18⇄-12⇄-6⇄-3⇄0(初期値)⇄+3⇄+6⇄+10(高)

内部マイクの感度を調整します。

[MODE]キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE]キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。

F04. TXPWR（送信出力）

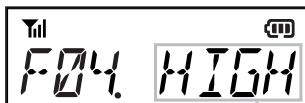
送信出力（発射する電波の強さ）を“HIGH”（1W）、“MID”（0.5W）、“LOW”（0.2W）から選択することができます。距離の近い相手と交信するときは、送信出力を“MID”または“LOW”に設定してください（ディスプレイに“L”が点灯します）。また、本機を受信専用機として使用する場合は“OFF”に設定してください。

- ① 一度電源を切り、[MODE]キーを押しながら電源を入ると、“VXD1”→“SET.MODE”が表示され、その後、設定モードの“C01.CLMOD”が表示され[MODE]キーを放します。
- ② [MODE]キーを数回押して、“F04.TXPWR”を選択します。
[MODE]キーを長押しするごとに、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲]または[▼]キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲]または[▼]キーを押して、希望の設定を選択します。

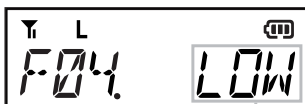
OFF	PTTスイッチを押しても、送信しません（受信専用）。
LOW	送信出力が 0.2W に設定されます。
MID	送信出力が 0.5W に設定されます。
HIGH（初期値）	送信出力が 1W に設定されます。

[MODE]キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE]キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定（点滅）



希望の設定（点滅）

F05.EMERG（緊急モード）

緊急アラーム機能の動作を設定することができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F05. EMERG” を選択します。
[MODE] キーを長押しすると、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して、希望の設定を選択します。



現在の動作（点滅）



希望の動作（点滅）

EMRTX	自局の ID を含んだ緊急信号を送出します。また、緊急動作中に PTT スイッチを押すと、相手局と通話することができます。 補足：この設定は、個別通信方式時のみ動作します。UC 通信方式時の場合「ポポッ」とエラー音が鳴り、何も動作しません。
EBEEP	トランシーバーのスピーカーから、緊急アラームを鳴らします。
OFF（初期値）	緊急アラーム機能は動作しません。
BP+T	“EMRTX” の動作を行った後、“EBEEP” の動作を行います。 補足：この設定は、個別通信方式時に使用しますが、UC 通信方式時に使用した場合は “EBEEP” の動作のみ行います。
SILNT	サイレント状態で緊急信号を送信します。ディスプレイ表示と LED は緊急動作中も変化しません。また、緊急動作中に PTT スイッチを押すと、相手局と通話することができます。 補足：この設定は、個別通信方式時のみ動作します。UC 通信方式時の場合「ポポッ」とエラー音が鳴り、何も動作しません。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。

F06. SCAN (スキャン)

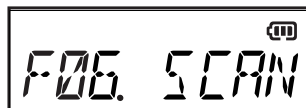
現在のチャンネルと設定したチャンネルを交互に受信し、信号が入感したチャンネルを自動的に受信することができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F06. SCAN” を選択します。
[MODE] キーを長押しすることにより、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して、スキャン機能の ON/OFF を選択します。

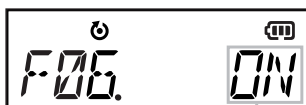
OFF (初期値)	スキャン機能は OFF になります。
ON	スキャン機能が動作し、信号が入感したチャンネルを受信します。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定 (点滅)



希望の設定 (点滅)

F07.SC-CH (スキャン CH)

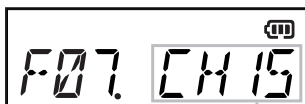
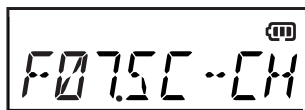
現在のチャンネル（通話チャンネル）と交互に受信したいチャンネル（スキャンチャンネル）を設定します。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F07. SC-CH” を選択します。
[MODE] キーを長押しすることにより、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して、希望のスキャンチャンネルを選択します。

CH01 ⇄ CH02 ⇄ . . . ⇄ CH15(初期値) ⇄ . . . ⇄ CH29 ⇄ CH30
スキャンチャンネルを設定します。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定（点滅）



希望の設定（点滅）

F08.SC-PT（スキャン PTT）

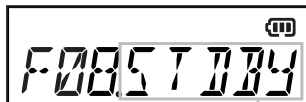
スキャン機能動作時の PTT（通話）スイッチ操作で送信状態になるチャンネルを設定することができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F08. SC-PT” を選択します。
[MODE] キーを長押しするごとに、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して、希望の動作を選択します。

STDBY（初期値）	通話チャンネルで送信します。
SCH	スキャンチャンネルで送信します。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定（点滅）



希望の設定（点滅）

F09.SC-RX（スキャン受信設定）

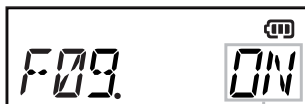
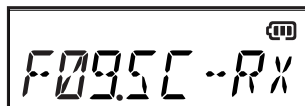
スキャン機能動作時に信号を受信した際、その後スキャンを再開させるかどうかを設定することができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F09.SC-RX” を選択します。
[MODE] キーを長押しするごとに、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して、スキャン機能再開の ON/OFF を選択します。

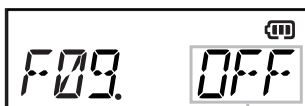
ON（初期値）	スキャン機能が再開します。
OFF	スキャン機能は OFF になります。

[MODE] キーを長押しして、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定（点滅）



希望の設定（点滅）

F10.AT-PO（自動電源オフ）

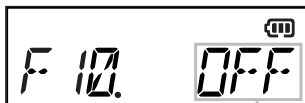
2 時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にし、電池の消耗を防ぎます。1 分前に警告音が鳴り、電源が切れます。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F10.AT-PO” を選択します。
[MODE] キーを長押しすることにより、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して、自動電源オフの ON/OFF を選択します。

OFF（初期値）	自動電源オフの設定を OFF にします。
ON	自動電源オフの設定を ON にします。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定（点滅）



希望の設定（点滅）

F11.PTHLD (PTT ホールド)

初期値は [通話 (PTT)] を押している間送信し、放すと待ち受けの状態になりますが、“ON” に設定すると [通話 (PTT)] を一度押すと送信状態のままになり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻るホールド機能付き PTT スイッチに変更することができます。

連続送信時間は最大 5 分間で、5 分が経過すると、自動的に待ち受けの状態に戻り、約2秒間 “プーップーッ” と警告音が鳴り、約 1 分間送信することができません。

再び送信したい場合は、1 分以上経過してから再度 [通話 (PTT)] を押してください。

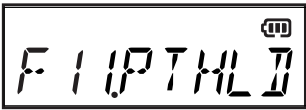
注意 PTT ホールドは、トランスシーバー本体の PTT スイッチのみ有効となります。(外部マイク等のオプション使用時には設定を必ず OFF にしてください。)

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F11.PTHLD” を選択します。
[MODE] キーを長押しすると、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して、PTT ホールド機能の ON/OFF を選択します。

OFF (初期値)	PTT ホールド機能を OFF にします。
ON	PTT ホールド機能を ON にします。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定 (点滅)



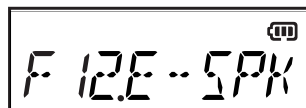
希望の設定 (点滅)

F12.E-SPK（外部スピーカー設定）

オプションのスピーカーマイクロホン MH-73A4B と MH-57A4B のスピーカーオーディオ特性を最適な特性に補正するための機能です。

上記のスピーカーマイクロホンを接続して使用するときは必ず“OPT”に設定してください。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの“C01.CLMOD”が表示され [MODE] キーを放します。



- ② [MODE] キーを数回押して、“F12.E-SPK”を選択します。

[MODE] キーを長押しすると、設定モードの項目を後退します。



現在の設定（点滅）

- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。

- ④ [▲] または [▼] キーを押して選択します。

STD（初期値）	補正は行いません。
OPT	最適な特性に補正します。



希望の設定（点滅）

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。

F13.SSAVE（スーパーセーブ）

待ち受け状態で約 2 秒間キー操作がないと電池パックの消耗を防ぐ機能が動作します。信号を受信時またはキー操作を行うとセーブ機能は解除されます。

補足

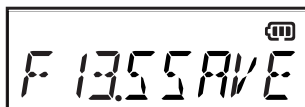
- スーパーセーブを“ON”に設定すると、PTT スイッチを押して送信を始めた際に電子音が鳴ります（送信ビープ）ので、鳴った後に話をしてください。スーパーセーブを“OFF”に設定すると、送信ビープも“OFF”になります。
- スーパーセーブは相手も同様“ON”に設定することで機能を発揮します。

- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの“C01.CLMOD”が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F13.SSAVE”を選択します。
[MODE] キーを長押しすると、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して選択します。

OFF（初期値）	スーパーセーブ機能を OFF にします。
ON	スーパーセーブ機能を ON にします。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定（点滅）



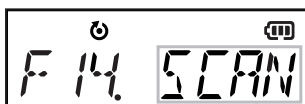
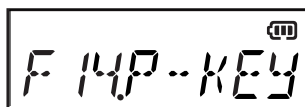
希望の設定（点滅）

セーブ機能を ON にすると、
受信中頭切れを起こすことが
あります。

F14.P-KEY（プログラマブルキー設定）

プログラマブルキーを別の機能に変更することができます。初期値は“2 チャンネルスキャン”（32 ページ参照）で“ワンタッチミュート”（33 ページ参照）に変更可能です。

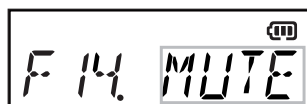
- ① 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの“C01.CLMOD”が表示され [MODE] キーを放します。
- ② [MODE] キーを数回押して、“F14.P-KEY”を選択します。
[MODE] キーを長押しすると、設定モードの項目を後退します。
- ③ [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲] または [▼] キーを押して選択します。



現在の設定（点滅）

SCAN(初期値)	2チャンネルスキャンに設定します。
MUTE	ワンタッチミュートに設定します。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。



希望の設定（点滅）

- ⑤ [MODE] キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。

S01. S/N（シリアル番号確認）

販売店および営業所サービスの確認用です。

S02. CSM（CSM コード確認）

販売店および営業所サービスの確認用です。

F99. RESET（設定リセット）

設定モードの設定値を初期値（ご購入時の状態）に戻します。

- 一度電源を切り、[MODE] キーを押しながら電源を入れると、“VXD1” → “SET.MODE” が表示され、その後、設定モードの “C01.CLMOD” が表示され [MODE] キーを放します。
- [MODE] キーを数回押して、“F99.RESET” を選択します。
[MODE] キーを長押しするごとに、設定モードの項目を後退します。
- [▲] または [▼] キーを押して、設定画面の表示にします。
- [▲] または [▼] キーを押して、設定リセットの ON/OFF を選択します。



リセット中止（点滅）



リセット開始（点滅）

OFF（初期値）	設定リセットを中止します。
ON	設定リセットを開始します。

[MODE] キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE] キーを押します。
- ON に設定した場合：
- “REALLY” が表示されます。
[▲] または [▼] キーを押すと、手順④に戻ります。
 - [MODE] キーを押すと “SUCCEED” が一瞬表示されリセットされます。
- OFF に設定した場合：手順②に戻ります。

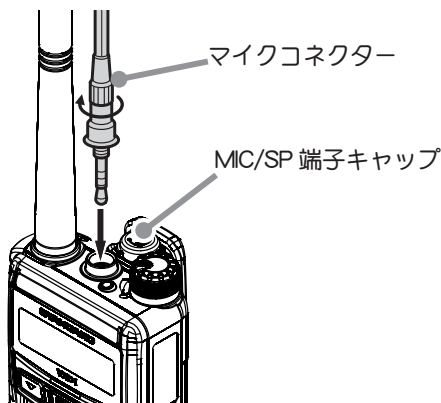
- ⑥ 電源を切ります。

オプションのマイクロホン取り付け

ねじ込み式の防水コネクタを使用しています。MIC/SP 端子キャップを外し、マイクロコネクタを挿し込み右へまわしきってしっかりと締めつけて取り付けます。

注意

- オプション類は、トランシーバーの電源を切った状態で取り付けてください。
- 締め込みが不十分な場合、接触不良を起こし通話できないことがあります。



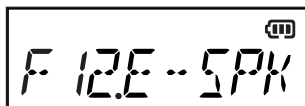
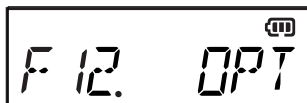
補足

- マイクロコネクタの端子を時々乾いた布や綿棒で拭いてください。端子が汚れていると、接触不良になって、正しく使用できなくなります。
- オプションを接続しないときは、MIC/SP 端子キャップを雨水等が入らないように確実に取り付けてください。

オプションのマイクロホン補正設定

オプションのスピーカーマイクロホン（MH-73A4B、MH-57A4B）を使用した際、マイクロホンのスピーカーオーディオ特性を最適な特性に補正することができます。上記のスピーカーマイクロホンを接続して使用するときは必ず“OPT”に設定してください。

- ① 一度電源を切り、[MODE]キーを押しながら電源を入れ、設定モード画面の“C01.CLMOD”が表示されます。
- ② [MODE]キーを数回押して、“F12.E-SPK”を選択します。
- ③ [▲]または[▼]キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲]または[▼]キーを押して「OPT」に選択します。

STD（初期値）	補正は行いません。
OPT	最適な特性に補正します。

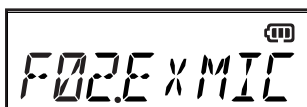
[MODE]キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE]キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。

オプションのマイクロホン感度切り替え方法

オプションのマイクロホンを使用した際、マイク感度を調節することができます。

- ① 一度電源を切り、[MODE]キーを押しながら電源を入れ、設定モード画面の“C01.CLMOD”が表示されます。
- ② [MODE]キーを数回押して、“F02.EXMIC”を選択します。
- ③ [▲]または[▼]キーを押して、設定画面の表示にします。
- ④ [▲]または[▼]キーを押して、希望の感度を選択します。
マイク感度は、下記の8段階から選択することができます。




希望のマイク感度（点滅）

(低)-18⇄-12⇄-6⇄-3⇄0(初期値)⇄+3⇄+6⇄+10(高)
外部マイクの感度を調整します。

[MODE]キーを長押しで、選択をキャンセルすることができます。

- ⑤ [MODE]キーを押します。
その後電源を切ると設定は終了です。

故障かな？と思う前に

間違った操作をしていませんか？ 修理を依頼される前に、お確かめください。

◎ 電源が入らない！

- ・ 電池パックが消耗していませんか？
 ➡ 電池パックを充電してください。
- ・ 電池パックの端子が接触不良になっていませんか？
 ➡ 端子を乾いた布で拭いてください。
- ・ 電池パックが古くなっていませんか？
 ➡ 電池パックの寿命です。
 新しい電池パックとお取り替えください。

◎ 送信できない！

- ・ PTT スイッチを正しく押していますか？
- ・ 送信出力の設定が“OFF”になっていませんか？
- ・ 上空用チャンネルになっていませんか？
 ➡ “CH S1” ～ “CH S5” の上空チャンネルは、モニターのみで送信することはできません。

◎ 通話できない！

- ・ 相手局と同じチャンネルに設定していますか？
- ・ 相手局との距離が離れすぎていませんか？
- ・ 相手局と同じ通信方式に設定していますか？
- ・ 相手局と同じユーザーコードに設定していますか？
- ・ 秘話通信機能が動作していませんか？
 ➡ お互いに秘話通信機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、交信することはできません。

オプション一覧表

品名	型番
ベルトクリップ（構成品と同等）	CLIP-25
標準型リチウムイオン電池パック（構成品と同等）	BT7X
急速充電器（構成品と同等）	CD-63
急速充電器用 AC アダプター（構成品と同等）	PA-57A
スタビーアンテナ（構成品と同等）	ATU-12J
ウルトラスタビーアンテナ	ATU-17J
ホイップアンテナ	ATU-6J
防浸型スピーカー / マイクホン	MH-73A4B ※
スピーカー / マイクホン	MH-57A4B ※
タイピンマイク	MH-62A4B ※
VOX ヘッドセット	VC-24 ※
インターコム型ヘッドセット	YH-100
インターコム型ヘッドセット用 PTT ケーブル	CT-87 ※

※：ねじ込み式の防水コネクターを使用しているため接続をするときは、十分に締めこんでご使用ください。

締め込みが不十分な場合、接触不良を起こし通話できないことがあります。

詳細等はカタログ及び八重洲無線株式会社のホームページ <http://www.yaesu.com/jp/> を参照してください。

定 格

一般

送 受 信 周 波 数 : デジタル簡易無線登録局 (6.25kHz 間隔、30 波)
 351.20000MHz ~ 351.38125MHz
 上空用チャンネル (6.25kHz 間隔、5 波)
 351.16875MHz ~ 351.19375MHz (モニターのみ可)

電 波 型 式 : F1E / F1D
 通 信 方 式 : 単信 (プレストーク) 方式
 電 池 持 続 時 間 : BT7X (構成部品) スーパーセーブ機能 ON 時 : 約 13 時間
 スーパーセーブ機能 OFF 時 : 約 10 時間
 (送信出力 1W 時、送信 5、受信 5、待ち受け 90 の繰り返し)

電 源 電 圧 : DC 3.7V $\pm$ 10%
 温 湿 度 範 囲 : 温度 - 10°C ~ + 60°C
 湿度 95% (35°C)

本 体 寸 法 : 55mm $\times$ 91mm $\times$ 27mm
 本 体 重 量 : 約 197g (BT7X、ベルトクリップ、スタビーアンテナ、
 MIC/SP 端子キャップを含む)

送信部

空 中 線 電 力 : 1W/0.5W/0.2W (+ 20%、 - 50% 以内)
 空中線インピーダンス : 50 Ω 不平衡
 発 振 方 式 : 水晶発振制御による周波数シンセサイザー方式
 周 波 数 許 容 偏 差 : $\pm$ 1.5ppm 以内
 変 調 方 式 : 4 値 FSK
 占有周波数帯域幅 : 5.8kHz 以下
 最大周波数偏 移 : $\pm$ 1324Hz 以内
 隣接チャンネル漏洩電力 : - 52dB 以下 (1W 時)
 ス プ リ ア ス 発 射 : 2.5 μ W 以下 (1W 時)
 不 要 輻 射 : 2.5 μ W 以下 (1W 時)
 標 準 変 調 入 力 : - 44dBm $\pm$ 5dB
 変調入力インピーダンス : 600 Ω

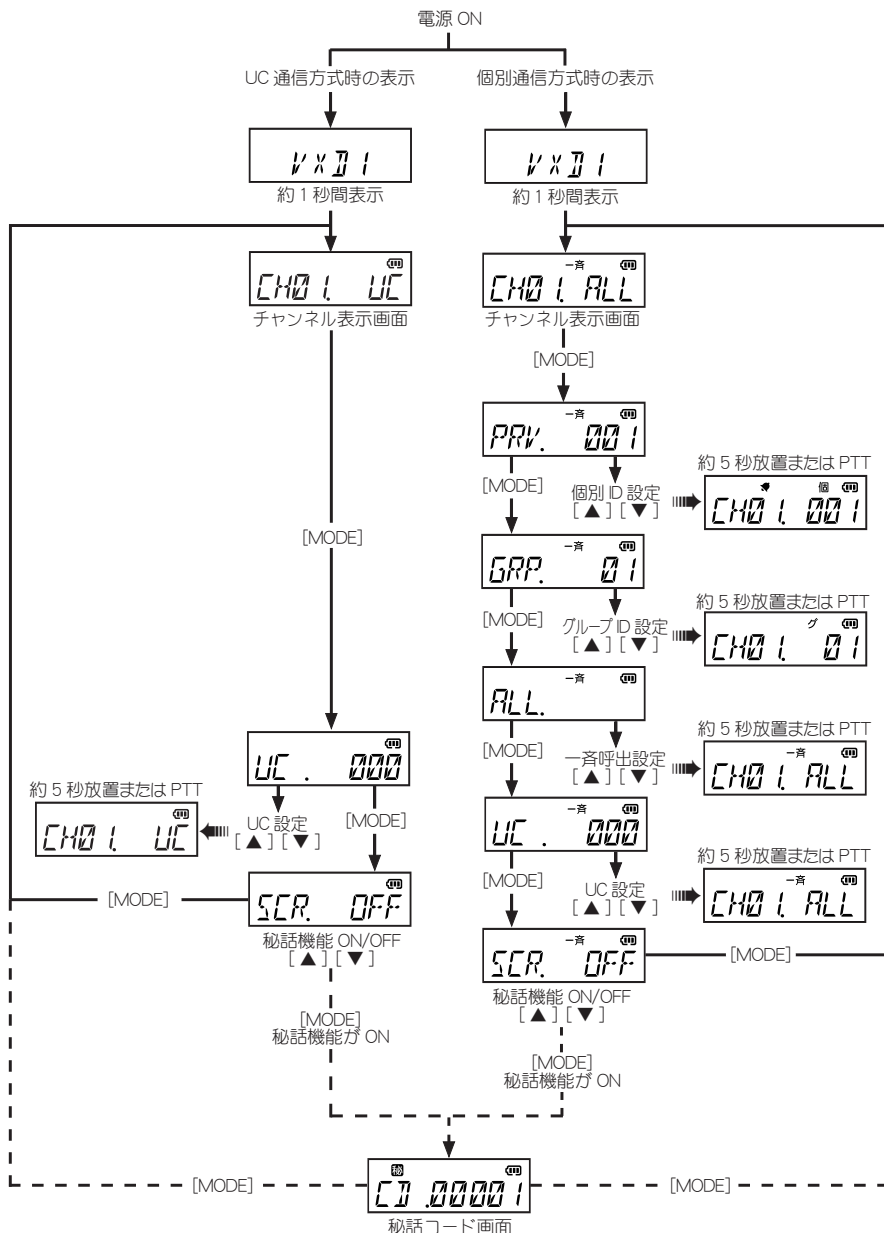
受信部

受 信 方 式 : ダイレクトコンバージョン方式
 局 部 発 振 周 波 数 : 受信周波数 $\times$ 2
 局 発 周 波 数 変 動 : $\pm$ 1.5ppm 以内
 受 信 感 度 : - 2dB μ V (BER=1%)
 ス プ リ ア ス レ ス ポ ン ス : 53dB 以上 (BER=1%)
 隣接チャンネル選択度 : 6.25kHz 42dB 以上 (BER=1%)
 相 互 変 調 特 性 : 53dB 以上 (BER=1%)
 低 周 波 出 力 : INT:500mW 以上 (10% 歪時)
 低周波出力インピーダンス : INT:4 Ω EXT:16 Ω
 副次的に発する電波等の強度 : 4nW 以下

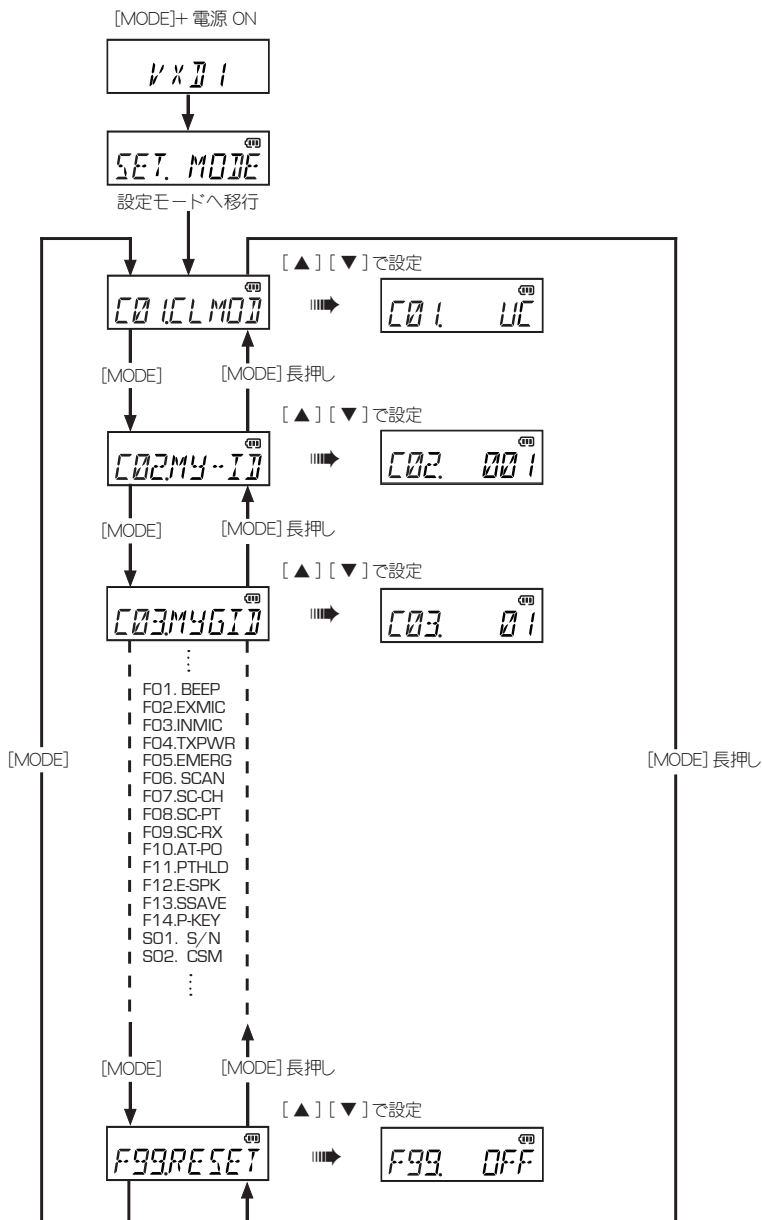
※ RoHS 指令準拠

付 録

操作の流れ（UC 通信方式、個別通信方式）



操作の流れ（設定モード）



キー操作早見表

キー / スイッチ / ツマミ	動作			
	まわす	長押し		短押し
電源スイッチ (音量ツマミ)	電源 ON/OFF (音量調節)	—		—
MODE	—	キーロック		通信設定
		設定モード時	設定項目後退	設定モード時 設定項目選択
▲	—	早送り (チャンネルアップ)		チャンネルアップ
		設定モード時	設定値アップ方向 早送り選択	設定モード時 設定値アップ 方向選択
▼	—	早送り (チャンネルダウン)		チャンネルダウン
		設定モード時	設定値ダウン方向 早送り選択	設定モード時 設定値ダウン 方向選択
PTT	—	送信		送信
プログラマブル	—	緊急モード (初期値 : OFF)		プログラマブルキー (初期値 : OFF)
				2 チャンネル スキャン (初期値) フンタッチ ミュート
MODE+ 電源スイッチ	—	設定モード		—

× 毛

[illegible]

索引

記号

▲ / ▼ キー	9
On キー	9

番号

2 チャンネル スキャン機能	32
-------------------------	----

欧字

A

ALL	24
AT-PO	47

B

BEEP	38
------------	----

C

CLMOD	37
CSM	51
CSM コード確認	51

E

EMERG	42
E-SPK	49, 53
EXMIC	39, 53

G

GRP	24
-----------	----

I

INMIC	40
-------------	----

L

LED インジケーター	8, 31
-------------------	-------

M

MIC/SP 端子	8
MODE キー	9
MYGID	38
MY-ID	37

P

P-KEY	50
PRV	24
PTHLD	48
PTT (通話) スイッチ	8
PTT ホールド	48

R

RESET	51
-------------	----

S

SCAN	43
SC-CH	44
SC-PT	45
SC-RX	46
S/N	51
SSAVE	50

T

TXPWR	41
-------------	----

U

UC 通信方式	17, 18
UC 通信の設定 と運用手順	19
UC 通信方法	20
UC の設定方法	23
USB 端子	9

かな

あ

アフターサービス	1
安全上のご注意	3
アンテナコネクター	8
アンテナの取り付け	11

い

一斉呼び出し	24, 28, 30
--------------	------------

お

オプション一覧表	54
オプションの マイクロホン取り付け	52
音量調節ツマミ	8

か

外部スピーカー設定	49
外部マイク感度	39
各種の便利な機能	32
各部の名前と機能	8

き

キー操作早見表	58
キーロック機能	35

キーロックキー	9
キャリアセンス機能	31
緊急アラーム機能	33
緊急キー	9
緊急モード	42

<

グループ ID	38
グループ呼び出し 24, 27, 30	

こ

構成品	2
コールチャンネル	17
故障かな?と思う前に	54
個別通信方式	17, 24, 25
個別通信の設定 と運用手順	25
個別呼び出し	24, 27, 30
個別呼び出しベル	10
個別呼び出し方法	26
ご利用にあたって	1

し

自局 ID	37
自動電源オフ	47
充電方法	14
消音機能	33
上空用チャンネル モニター	17
シリアル番号確認	51

す

スキャン	32, 43
スキャン CH	44
スキャン PTT	45
スキャン受信設定	46
スーパーセーブ	50
スピーカー	9

せ

設定モード	36
設定リセット	51
全員を一斉に呼び出す	24

そ

操作の流れ	56, 57
送信出力	41

ち	
チャンネル構成	17

つ	
通信方式	17, 37
通信方法	20
通話チャンネル ...	17, 21, 26

て	
定 格	55
ディスプレイ	9, 10
デジタル簡易無線局	
について	17
電源スイッチ	8, 20, 26
電池パック残量表示	10
電池パック持続時間	15
電池パック単体	
で充電する	15
電池パックについて	13
電池パックの充電方法	14
電池パックの消耗 . 8, 10, 50	
電池パックを入れる	12
電池パックをトランシーバー	
に入れて充電する	16
電池パックを取り出す	12
電波干渉	2

と	
登録局	17
特定の相手だけを	
呼び出す	24

な	
内部マイク感度	40

は	
バックライト	9
ハンドストラップ	
の取り付け	11

ひ	
ビープレベル	38
秘話通信機能	34

ふ	
付 録	56
プログラマブルキー	9, 50

へ	
ベルトクリップ	2
ベルトクリップ	
の取り付け	11

ほ	
防水性について	2

ま	
マイク	9
マイク感度	39, 40, 53
マイクロホン感度	
切り替え方法	53
マイクロホン補正設定	53

め	
免責事項	1

ゆ	
ユーザーコード通信 ...	17, 18
ユーザーコード通信方法 .	20
ユーザーコード	
の設定方法	23

よ	
呼び出しを受けたとき	30

り	
リチウムイオン電池パックの	
リサイクルについて	13
リセット	51

わ	
ワンタッチミュート	33



正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがご購入
いただいた販売店または、下記までご相談ください。

取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。
詳しくは下記の URL をご覧ください。

販売：八重洲無線株式会社 国内営業部

〒 140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8
天王洲パークサイドビル

電話：03-6711-4055

URL：<http://www.yaesu.com/jp/>

製造：パーテックススタンダード LMR 合同会社



© 2015-2016 パーテックススタンダード LMR 合同会社
無断転載・複写を禁ず

中国印刷